

緑と水とNPOと——新しい企業像を求めて

高橋 房雄 (たかはし ふさお/株式会社高特代表取締役)

はじめに

私は、群馬県で土木工事の特殊な分野の小さな建設会社を営んでいる。このたび環境力大賞の評価を得て第1回の栄えある受賞者になれた。もちろんチャレンジさせていただいたのは私だが、この私に社会に眠っている環境力を喚起させる使徒の力量があるのだろうか、些か心もとない思いでいる。そして、受賞をゴールではなく折り返し点としていくには、まだまだNPO法人環境文明21の環境力をお借りしなくてはならないと思う。変わらぬご指導を改めてお願いしておきたい。

景観緑化への工夫

34年も前の話になるが、自分の仕事である吹付け工法という仮設めいた法面保護工事に馴染めないものを感じ始めて、もう少し本格的な仕事はできないかと漠然と考えるようになった。自然の凹凸のままにモルタルやコンクリートを吹付けることに後ろめたさを感じていたのだ。

安全との引き換えに風景の中に、ところどころ灰色の伏せ字をおくような自然景観喪失の違和感、そこで考案したのがグリーンポケット工法であった。素朴な感性から始まった吹付法面の樹木による緑化である。

開発当初は地方業者が「贅沢だ」「法面保護の効果に反する」などの言葉で相手にされなかった。しかし今「熟成した景観」とか「豊かな生態系」とか景観を地域の品格として見直す時代になり、受け入れられはじめている。社会の受容には時間を要することを痛感している。

アオコ退治

平成の初め頃、プラスチックろ材を使って池

の浄化装置の開発に着手した。

古いため池を埋め立ててゲートボール場にするという話を聞いたのがきっかけだった。また、自分でも生態系を活性化させ水環境の汚染を防ぐ試みをしてみたかったのだ。特に、アオコは健康に大きく影響する毒性の強い物質を生産するといわれているにもかかわらず、確たる抑制工法は見当たらなかった。私の場合はむしろ専門家ではないという気楽な面もあり、ストレートに工夫できる立場にあった。

つまり、池などの富栄養化は極めて人為的原因が汚濁を招き、過剰な有機物の放置に原因があること。接触酸化法という人工的なリスクの残らない自然の摂理に基づく浄化をしたいこと。そのためには、バクテリアの働きで浄化が進むのは、有機物の中でも溶存状態の目には見えない汚れから浄化していくのがいい事、そのために少し時間がかかることなどなどであった。

最近、加藤三郎先生や開発初期から相談相手になってくれている静岡大学加藤憲二教授の指導もあり、ようやくシステムに完成を感じるようになった。営業活動を進めている。

NPO法人日環工の活動

さて、私はNPO法人日本環境土木工業会（略称NPO日環工）の代表をしている。この組織は内閣府から認可をいただき7年になる。そして法人化前から加藤三郎先生には顧問としていろいろご指導を頂いてきた。

任意団体での歴史が長く日本各地の建設業者や法面緑化を営む会社にとって、情報交換や学習の場として貴重な機能を果たしてきたと考えている。当然のことであるがNPO化に伴い法人会員の代表者はじめ多くの方が個人会員となり、また従来からの機能も維持すべく、法人会員という枠を残し、

これに活動を支えてもらっている。

現在賛助会員を含めて約40数社が法人会員で100余名が個人会員として登録している。入会希望もあり会員を増やしたいと考えている。

任意団体からNPOに移行するころ、時代の厳しい方向への変化が予感されて、多くの会員が「NPOで何をするのだ？」に次いで「メリットは何かあるのか？」という問いが投げかけられた。しかしこれを契機に退会する、という人はほとんど無かった。よく存続することができたと感謝している。

しかし、最近では公共事業を企業経営の軸足にしている会員は、経営規模の縮小や自主的な廃業や連鎖倒産などによる悲劇的な廃業もあり会員数が減少している。

これは地方でインフラに直結している守り手がいなくなることで、地方や国の防災体制への影響が懸念される。災害地をいつまでも放置されている荒廃したふるさとの光景が眼に浮かぶようだ。地方に根ざした企業は、その地方に殉じる郷土愛を持って経営している者が多く、発注者は企業の活動ミッションを評価し、パートナーとして育てる何らかの手当ての必要を強く感じる。

さて、会の活動は当然のことながら総会でスタートする。総会は東京都内で行うが、加藤三郎先生と国土交通省河川局砂防部による記念講演は任意団体のときから既に定番となつて久しい。

次いで支部会を継続的に開催している。この席は情報交換が中心であるが、その中には環境新世紀推奨工法評価委員会の推奨する工法の説明会も開かれていて好評である。

この環境新世紀にふさわしい新工法を推奨する活動は、会員、会員外を問わずHPと会報「みどりの風」で公募し結果を公開している。

法面に関する応募が圧倒的に多いが、応募作の中には、応募者に改善を求めて推奨まで数年を要する場合もある。今後は公募を継続しつつ、今まで推奨してきた工法のその後の展開や普及の支援に取り組んでいきたい。その活動の一つ資格認定活動を紹介しよう。

その工法は、2007年度に推奨した工法であるが、施工に際して工法独自の技能の習得が望ましく、そのための資格認定の講習会を新潟県の法人会員カネコ工業(株)金子正平社長からの依頼で県の支援

を受けて実施した。

新潟県は2度の大きな地震災害を受けて修復しなければならない構造物がまだ沢山ある。そこで技能の講習はメーカーが責任を持って行い、私たちは周辺知識の講習を実施し認定書・修了証を発行した。講習期間は実技を中心に5日間、受講者は14名で女性もいた。その他地元コンサルタントも参加して好評であった。

NPO日環工は、任意団体として1985年に発足し来年は25周年となる。そして今、未来を託す若手新リーダーの育成活動を進めている。

壮大なグローバル不況の最中であつて、悩んでいるのは古くからの経営者層だけではない、むしろ若手の方が深刻である。昨今の公共事業敵視政策ともいえる風潮の中で、国民の安全安心のインフラを整備する業界が、安全安心とは程遠い不況連鎖の経営環境に苦闘している。どうして雇用を守り希望を見出していくのか、新しい事業への転換は可能かなどである。NPO日環工が長い間続けてきた全国的な人と人との生の情報交換や交流の中で、新たな可能性の発見を若い人に体験してもらうこともその一つである。

最後になるが公共事業は発注者と共に私たちが変わらなければ変わらないと考えている。そのためには一日も早く旧来の請負業者「体質」から脱出することだ。このことにNPOを活用し、若い人が柔軟に、かつ逞しく取組んで21世紀を成功の世紀にして欲しいと願っている。

環境力大賞を頂き、私は自分の歩みを振り返ることができた。そして今更ながら寛容なNPO法人環境文明21の影響を大きく受けていることを実感している。そしてこれからも必要としていこう。これから人類が遭遇する環境文明を支えるNPO法人環境文明21の環境力がさらに大きなものになっていくことを願って筆をおきたい。

有り難うございました。

株式会社 高特

〒377-0003 群馬県渋川市八木原224-14
TEL : 0279-22-2035 FAX : 0279-23-3913